

令和9年(2027年)茨城高等学校・茨城中学校は
創立100周年を迎えます あと3年です

報恩感謝



発行
茨高・茨中百周年
準備委員会
代表 種田 誠
茨高・茨中会報発行委員会
水戸市八幡町16-1
電話 029(221)4936
茨高・茨中公式ホームページ
<http://www.ibaraki-jsh.ed.jp>
印刷 いばらき印刷(株)
題字 中島 儀昌

あと三年 種田誠 …… 1	記念誌・会報委員会報告 …… 3	問題解決的なプログラミング… 6	進路実績 …… 7
事業への取り組み 寺門祐児 …… 1	大同窓会・総会 …… 4	「実感」を目指した化学実験… 6	飯村丈三郎と教育(4)…… 8
昭和と令和 紺谷智則 …… 1	あの時 草野史仁 …… 5	オリエンテーション合宿 …… 6	
募金委員会報告 …… 2	年表で見る百年(中の1) …… 5	UC DAVIS 研修プログラム… 7	
建設委員会報告 …… 3	動物実習「イモリの観察」… 6	剣道部紹介 …… 7	



https://twitter.com/iba_chu_ko

バックナンバーは学校HPの100周年記念サイトでご覧いただけます

百周年準備委員会委員長 種田 誠

創立百周年の2027年4月まで3年となりました。準備委員各位のご協力に感謝いたします。

同窓会名簿が完成し、目標3億円の募金委員会も発足し、昨年11月から寄付受け入れを開始しました。同窓生はじめ関係企業の皆様には多大なご支援をお願いいたします。寄せられました募金にて、AI等を用いた在校生・卒業生の学習支援を実施する総合学習センターを主な目的とする百周年記念会館を設立いたします。基本設計をし、本格的な設計作業に入ることとなります。

大きな節目となる百周年記念事業に向け、物心両面の一層のご支援・ご協力を、よろしくお願いいたします。



学校法人茨城・理事長 寺門 祐児

この度、前任の種田誠理事長の後任として学校法人茨城の理事長に就任致しました寺門祐児です。宜しくお願い致します。

百周年記念事業につきましては、昨年11月にいよいよ募金活動を開始致しました。募金の目標金額は3億円と設定しておりますが、総合学習支援センター(仮称)の建設をはじめ様々な百周年記念事業の財源となる重要なものです。今後とも同窓会をはじめ関係各方面の皆様と一体となって百周年記念事業に取り組んでまいりますので、引き続き一層のご支援をお願い申し上げます。



百周年準備委員 紺谷 智則

前茨城高等学校・中学校PTA会長

卒業生、PTA会長として百周年準備委員会に携われた事に、大変感謝しております。私は在学中に3年間応援団に所属し、野球部の夏大会のみでしたが母校の応援をしていました。男子校の応援団と言えば学ランです。どんなに熱くとも一滴の水も飲ませて貰えず、時々頭に水を掛けながら顔から滴り落ちる水をすすり、昭和は根性が重要視される風潮でした。40年後、八木節を久々に聞いて懐かしく思い、令和の応援団は涼しそうユニホームと華やかなチェアアリーダがいて、熱中症対策や給水タイムで生徒にやさしい環境となり、時代の変化を感じました。常総戦で勝利の瞬間に得た喜びは、「優勝候補が強い」ではなく勝ったチームが強い」でした。



第3回募金委員会報告

日時・場所

令和6年3月16日(土)

15時より 於 P T A室

議事

開会のあいさつ (岡崎委員)

理事長あいさつ (種田委員長)

募金委員会自己紹介

議題

I 募金の入金状況(2月末)

II 第2期募集について

趣意書・振込用紙等

III 第2回委員会の募金戦略

と経過報告

閉会の挨拶

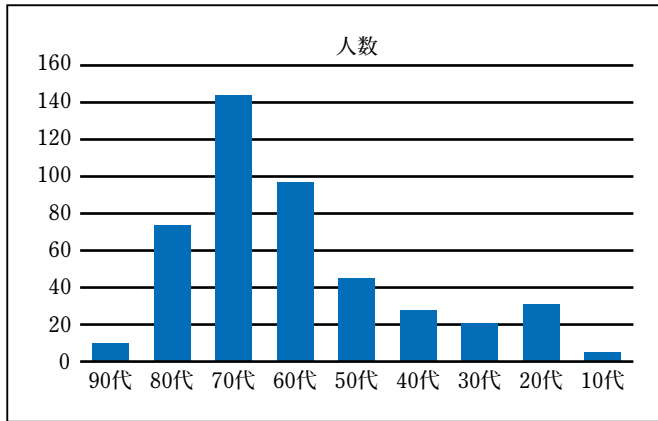
I 募金の入金状況の報告

令和6年2月29日の個人集計分で、475名分、三千六十八万八千円(卒業生以外の一般を含む個人・団体)が集まりました。目標額のおよそ1/10です。

ご協力ありがとうございます。

第1期の募金趣意書の送付は、個人と企業を合わせ一万五千六百五十五件に行いました。まだ認知に課題があるようです。年代別では以下になりました。

100周年募金 卒業生年代別 件数集計 (グラフ)



100周年募金 卒業生年代別集計 (表)

卒業年代		年齢	人数	募金額	人数割合
中学	高校				
昭16～23	昭20～27	90代	10	425,000円	2.2%
昭24～33	昭28～37	80代	74	2,020,000円	16.3%
昭34～43	昭38～47	70代	144	15,922,000円	31.6%
昭44～53	昭48～57	60代	97	3,320,000円	21.3%
昭54～63	昭58～平4	50代	45	1,592,000円	9.9%
平1～10	平5～14	40代	28	405,000円	6.2%
平11～20	平15～24	30代	21	371,000円	4.6%
平21～30	平25～令4	20代	31	403,000円	6.8%
平31～令5	令5	10代	5	230,000円	1.1%
合計			455	24,688,000円	100%

II 第2期募集について

(1) 第2期

3/16 趣意書内容承認

4月上旬 趣意書校正

5月上旬 趣意書完成

6月上旬 第2回趣意書・振込用紙の発送

8月下旬 募金委員会役員会

9月7日 第4回募金委員会 (土曜日 15時)

12月中旬 募金領収書・記念品の発送

* 法人と高額寄付者は別対応する

(2) 第2期募集趣意書・振込用紙について

① 募金委員 原則継続、肩書きの記載も従前通り行う

② 趣意書のデザインと委託業者の変更…「サラト」から「スタジオ・サカ」(水戸市元吉田町)に変更する

ア 地元でプロの専属デザイナーがいる

イ 本校の広報部と取引があり、画像データが多くある

ウ 費用の負担が比較的軽い (デザイン費・配送費用増程度)

③ 募金の目的

第1期趣意書

創立百周年記念事業の実現

記念式典の開催、記念シンポジウムの複数開催、

記念誌・会報の発刊、グローバル教育・探究活

動・ICT教育の推進、教育環境(施設・グラ

ド)の拡充、学習支援センターの新築

第2期趣意書

4月末までに委員長・法人

理事長と相談して決定学習

支援センターコンセプト

「atama+ (アタマプラス)」

について共通理解を持つ

III 第2回委員会の募金戦略の経過報告

1 募金要請先の卒業年度別・業

種別・地域別リストの作成と活用

2 地域・職域・部活動同窓会への働きかけ

3 同窓会と事務局の連携

4 個人募金の周知・依頼の方法

5 HPの改善

6 その他 募金領収書は記念品

と共に1月19日発送

建設委員会報告

百周年記念学習センター

(仮称)の設置について

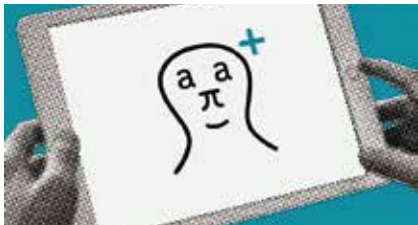
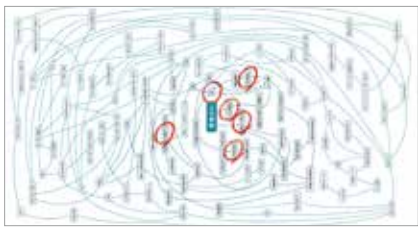
茨城高等学校・中学校の100周年記念事業の核として、100周年記念学習センター(仮称)の設置について準備を進めているところです。建設予定地として、本校の南西に隣接する水戸市八幡町15番に用地をすでに確保しています。

当センターには、①AI教材を利用した課外学習の実施、②創立者、飯村丈三郎先生の資料展示ならびに顕彰、③中高同窓会の活動拠点、の3つの機能を持たせます。そのために、4〜5室程度の教室、飯村先生資料展示・顕彰のためのブース、中高同窓会本部(会議室)の設置を予定しております。

うち、①の学習センターでは、2024年、駿台予備校とのパートナーシップ提携にもとづき、AI教材「atama+ (アタマプラス)」を導入し、最先端のデジタル学習が可能な環境を実現いたします。atama+は、生徒一人ひとりのつまずきの根本原因を特定し、最短距離で理解に導くことのできるパーソナル・ラーニング・システム

ムです。駿台予備校をはじめ、全国の進学校や塾、予備校で導入され、生徒の学力向上と高い相関性を持つことが実証されています。希望する生徒たちは、授業とは別に、放課後、当センターを利用して、atama+を利用した課外学習を行うことが可能です。対象となるのは、中学1年から高校3年まですべての学年です。本校では、単に教材を導入するだけでなく、atama+の指導に習熟したコーチング・スタッフを駿台から派遣させ、生徒たちの学びを継続的に支えてまいります。

また、当センターは、木造2階のシンプルな建築を予定しています。数十年後に建て替えが必要になれば、容易に解体を可能にする構造とし、エコリズムにも配慮した施設を目指してまいります。



記念誌・会報委員会報告

事業の中間報告 (職員会議)

日時・場所

令和6年3月11日(月)
— 令和4年8月以後 —

1 事業報告

- (1) 『百周年会報「報恩感謝」』第1号〜第3号作成発刊
- (2) 募金記念品『飯村丈三郎読本』第1巻「丈翁の生い立ち」作成発刊
- 2 事業計画

- (1) 『百周年会報「報恩感謝」』第4号〜第10号発刊
- (2) 募金記念品『飯村丈三郎読本』第2〜5巻発刊
- (3) 校史の編纂：中高一貫男女共学の総括が主題

- (4) ① 創立者を知る 1/6
- ② 男子校時代(Aコース・中高進学校) 2/6
- ③ 中高一貫総括(1〜33期生) 3/6
- (5) ③を現旧学年団が編成
基礎資料の作成
年表(教務日誌・職員会議議事録などから作成) 進学実

3 活動記録

- 職員会議報告(2回)
- 校内プレ準備会報告(6回)
- 校内準備委員会報告(9回)
- 飯村家視察(1回)
- 準備委員会報告(3回)
- 4 資料の収集(18件)
- 5 研究と報告(18件)

当面の課題

- 1 『飯村丈三郎読本』第2巻「丈翁と美術」の編集
小泉晋哉先生(茨城大学名誉教授・現茨城県天津記念五浦美術館館長)に参加していただく ISBNコードを取得する
- 2 校内組織の立ち上げ
- 3 飯村丈三郎記念室の構想
- 4 飯村家資料調査の必要性



績の変遷 体育祭・文化祭・マラソン大会他行事記録 P T A 蒼穹会活動記録(『春秋』他を含む) 紀要他の出版物 部活動の記録 現旧職員名簿 校舎等設備の変遷 美術品目録 他



茨城中高同窓会

去る令和5年10月21日、水戸三ノ丸ホテルに於いて茨城高等学校同窓会・茨城中学校同窓会の大同窓会（総会）が開催されました。もともと茨城高等学校同窓会と茨城中学校同窓会は別組織で、総会及び懇親会の開催時期等も異なるものでしたが、この度両同窓会発足以来初めてとなる合同開催となりました。また、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面での総会を見送っていたため、一同に会す機会としても非常に久しぶりのものでした。創立百周年記念会報が送付され始めたことや同年夏の高校野球茨城県大会における本校野球部の大躍進などにより、非常に期待度の高い空気感の中で同窓会総会のご案内を差し上げることができたと感じています。実際に、非常に多くの卒業生からお返事のおハガキを頂戴し、当日は217名の卒業

生が総会にご参加くださいました。これは前例がない規模の参加者数の多さです。十分な余裕を持って会場をご用意いたしました。が、総会ではちょうど満席になるほどの賑わいとなりました。

17時から開始された総会では、来賓に学校法人茨城理事長・種田誠先生、茨城高等学校中学校校長・梶克治先生、元衆議院議員・大島章宏様、茨城県美術展覧会会長・彫刻家・能島征二様、茨城高等学校同窓会名誉会長・加治力也様をお迎えし、前半に高校同窓会総会、後半に中学同窓会総会の2部構成として実施しました。議事については次のとおりです。

【高校】（1）令和4年度事業報告並びに決算報告について（2）令和5年度事業計画（案）並びに予算（案）について（3）茨城高等学校同窓会役員改選について（4）創立百周年記念事業への関わりについて

【中学】（1）令和2・3・4年度決算報告について（2）令和5年度予算（案）について（3）茨城中学校同窓会役員改選について（4）創立百周年記念事業への関わりについて

議事はつつがなく進行し、特に「創立100周年記念事業への関わりについて」では、高校同窓会・中学同窓会それぞれが寄附金を拠出することが可決されました。



総会では議事のほかに、創立百周年事業準備委員会の岡崎謙一先生より、事業の中核となる記念館（学習支援センター）建設について、また、寄附金についてのご案内などのお話を頂戴しました。

総会終了後は同ホテル内で会場を移動し懇親会が開かれましたが、こちらも大変な賑わいとなりました。同年代の語らいはもちろんのこと、幅広い年代の卒業生が多数ご出席していたこともあり、会場内のでここで世代を超えた交流が行われていたようでした。

また、この交流の輪に女性の卒業生も複数いらっしやったことは、本校が男女共学となり長い年月が経過したのだなと感じさせられます。

みなさまのおかげをもちまして総会及び懇親会は大変な成功裡に終わりました。目前に迫った本校創立百周年記念事業に向けても大きなはずみになったかと思いません。また、同窓会については高校同窓会・中学同窓会の結びつきを今後より一層強固なものとし、今回の大同窓会のような大きい盛り上がり卒業生全体で継続的に形作っていきけるよう、様々な工夫や施策を実施していきたいと思いません。どうか、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。



あの時 平成元年3月 中学の男子校時代

平成元年卒 草野史仁(中学42回)

百周年おめでとうございます。このような形で一筆認めさせていただきます。ただけることに御礼申し上げます。

今から35年前、昭和天皇が崩御され平成になる激動の年に私は茨城中学校を卒業しました。

当時は現在のような中高一貫校ではなく、ほとんどの生徒が県立高校への受験競争に挑み、念願叶った生徒は県立へ、逆に叶わずの生徒はそのまま茨高へ進学していきましました。

私は県立高校へ進学したのですが、同じ校歌を唄う茨高も、やっぱり母校なのです。

一昨年の夏の高校野球茨城県予選で我が茨高が常総学院に勝利した時は本当に感動しましたし、次戦には同級生数人と連れ立って球場まで駆けつけました。

今回はお預けでしたが、甲子園出場という茨中茨高OBの夢はきつといつの日か「報恩感謝」を

胸に秘めた後輩球児達によって達成されると信じています。

その頃の茨中はまた、県内唯一「女人禁制」の男子中学校でした。全員学帽に学ラン、しかも男子学生のみ、加えて恐怖の男性教師陣…

まさに当時週刊少年ジャンプに連載されていた「魁！男塾」そのものでした。

高校に進学して同じクラスに女子がいる感覚というのは当初戸惑ったのを覚えています。

これは卒業して何十年も経ってオジサンになってから気付いたのですが基本的に茨中茨高OBは卒業後も仲良しです。

何故か？学生時代のまだお互いに利害関係の無い時分に知り合っていたからです。

大人の場合のように、「事業が傾く」だの「長期借入」だの、心配なことはありません。

僕らの学年は40歳過ぎまで同窓会のようなものは、一切やりませんでした。

それがみんなな仕事も家庭も人生自体も安定してくると余裕が出てくるのか、オジサン達だけで集まり、先生も呼んで昔話で盛り上がるようになりました。

未だに同窓会で盛り上がる話題として、保健体育の授業の前になると教室中に学ランの襟ホックを締める「パチン・パチン」という音が鳴り響いた「怪現象」があります。不注意にも締め忘れた生徒がいた場合には、容赦なく愛の鞭が飛んでくるので、皆必死だったのを覚えています。

それから学帽にも厳しく、運悪く通学の途中で被っていないのを発見されて、そのまま職員室に連行され、昼休みまで留め置かれた、とか。

いまなら「不適切にもほどがある」ということになると思います。が、その頃はそういうことがよくありました。

もちろん大勢の素晴らしい先生方が、真剣に教鞭を執られていたのを記憶しております。

そんな軍隊さながらの生活を12、3歳の時期に経験し、身に付けた忍耐力が、その後の人生に大いに役立つ事に今でも感謝しております。(これ本心です)

◎原稿を生かしつつ、執筆者の了解を得て、編集者の責任で適宜改稿させていただきました。

年表で見る百年(中の1)

1961(昭36) ③4ベルリンの壁

大内俊三郎理事長に就任

1962(昭37) ③5東京一千万超

文翁銅像除幕式 陸上八百M

日本選手権優勝(塙)

1963(昭38) ③6ケネディ暗殺

第2回県吹奏楽コンクール初

出場・初優勝

1964(昭39) ③7東京五輪開催

レスリング部国体4位入賞

(皆川・大細田)

1965(昭40) ③8米軍北爆開始

中学校舎完成 水泳部連続国

体出場

1966(昭41) ③9日ソ貿易協定

中高一貫Aコース開始

青年の像除幕式

1967(昭42) ④0EC成立

ボクシング全国総体ライトミ

ドル級優勝(田口)

1968(昭43) ④1三億円事件

中高体操部全県大会優勝

1969(昭44) ④2安田講堂事件

吹奏楽部全国器楽コンクール

合奏の部4位

1970(昭45) ④3よど号乗取り

体育館兼講堂・屋内プール

動物実習「イモリの観察」

生物科教諭 桑名知碧

本校の中学1年生の生物は「イモリの観察」から始まります。生き物が苦手な生徒も多く、中学第一回目の実習は毎年大混乱です。本校の生物実習では、生物学の基本である「観察眼」を養うことを目標に、「本物」から学ぶことで生徒たちの好奇心を刺激するような授業を展開しています。このイモリの実習は「観察の基本」を身に着けることを目標に毎年第一回目の実習として行われてきました。イモリをよく観察してみると、

問題解決的なプログラミング

情報科教諭 戸崎嘉

この授業は、茨城大学の大西教授をはじめ、大学院生・大学生の協力のもと行っています。下の上段の写真の授業では、前方のセンサが障害物を検出すると、直角に曲がるようEV3と呼ばれるロボットをプログラミングすることで、四角形を描かせるという課題を行っています。夏休み前までには下の下段の写真のような「豪雨災害で倒れた倒木を除去する」というシミュレーションを想定した課題に挑戦させていくことで、更

生徒たちは前肢と後肢で指の数が違うことに気が付きました。そして、その理由について隣の人と議論を始めます。大混乱だった生物室も絶叫から関心の声に変わっていきます。生徒たちは、「イモリという「好奇心」の種から、自らの力で「疑問」を発芽させ、さらに学友との議論から「発見」という花を咲かせようとしています。



イモリの観察をする生徒

なる問題解決能力の向上を目指します。



「実感」を目指した化学実験

化学科教諭 田中優志

化学の授業では、「実感」を伴った本質的な理解を目指して様々な実験を行っています。大気圧の授業では色水入りのチューブを4階まで持ち上げ、色水にはたらく重力と大気圧が釣り合うことを視覚化しました(写真上)。結晶の授業では、目に見えない原子の並び方を空き缶で学びました。写真左下は、原子に見立てた空き缶です。隙間なく並んでいるようですが、上手にいれるともう一本入ります(写真右下)。



これが「最密充填」であり、「面心立方格子」などの基本となる並びなのです。他にも様々な実験や観察を行っていますよ！

オリエンテーション合宿

茨城中学校 第1学年主任 井上奈穂

4月19日(金)〜20日(土)、水戸少年自然の家にて5年ぶりのオリエンテーション合宿を実施しました。30期生が入学して最初の大きな行事です。創設者である飯村丈三郎先生や建学の精神「報恩感謝」について学んだ後、飯盒炊さんやウオーケラリー、焼き杉板体験を行いました。「おいしかった。」「楽しかった。」「疲れた。」「生徒たちの笑顔と満足げな表情が印象的でした。消灯時間を過ぎても、



部屋の中からは生徒たちの話し声が聞こえてきました。「きつとこの時間が一番楽しいでしょう。」と教員で顔を見合わせました。茨中生としての自覚と、6年間を共に過ごす仲間たちと思えば2日間となりました。

UC DAVIS 研修プログラム

英語科 木村 智 樹

令和6年3月の春休みを利用して、連携協定を結んでいるUC DAVIS（世界ランキング59位）にて初の研修プログラムを実施しました。一般生徒（国際教養コースの生徒数名を含む）が希望制で参加するプログラムです。UC DAVISの広大なキャンパスで最先端の施設を活用し、専門分野の知識を深めました。また、ホストファミリーなど現地の人々との交流により、アメリカの生活様式を直接体験しました。参加者にとって、視野を広げ大きな成長を遂げる貴重な機会となりました。



DAVISの落ち着いた街並み



UC DAVIS



フードバンク活動を終えて



Career Program 2日目の様子



Careerメンバー



STEMメンバー



STEMプログラムの様子



ゴールデンゲートブリッジを背景に



セイザー塔を背景に

剣道部紹介

剣道部は当時剣道が正課であったため、一九二七年の創立と同時に創部されました。現在名誉顧問・顧問・コーチ計六名の指導の下、中高合せて二十四名で活動中です。試合着の右袖には創部百周年の長い歴史を記念して「Since 1927」の刺繍が誂えられています。関東大会・全国高校総体の優勝楯に刻まれた「非思量」「兀兀地春夏秋冬」を部訓とし、歴代顧問の先生・先輩方の輝かしい実績と高い志を胸に、私たちは新たな剣道部の歴史を築いていきます。今後ともご支援の程よろしくお願ひします。



国公立大学	
大学名	合格者数
東京大学	1
京都大学	1
東北大学	4
北海道大	1
筑波大	2
千葉大学	4
信州大学	6
茨城大学	20
その他	44
計	83

私立大学	
大学名	合格者数
早稲田大	6
慶應義塾大	7
上智大	11
国際基督教大	1
東京理科大	8
明治大	19
立教大	19
中央大	19
その他	432
計	522

海外大学	
大学名	合格者数
The University of Sydney	2
The University of New South Wales	2
Monash University	3
The University of Melbourne	1
University of North Alabama	1
Delta State University	1
計	10

進路実績

飯村丈三郎と教育(4)

募金の記念品の第一弾として『飯村丈三郎読本第一巻 丈翁の生い立ち』(百頁)が刊行された。扉に日本火災保険時代の写真を掲げ、「父母の巻」「四恩の説」「家庭小話」など現存する飯村の著書を翻刻、「四恩の説」を解説した弓削俊澄師「丈翁の信仰」を付帯する。以上により飯村の思想と「受けた教育」の概要を知ることができる。

大正6年(1917)川島運平・二男雄は、飯村の孫娘閑子と結婚、飯村本家に入った。『父母の巻』と『家庭小話』はこの新夫婦のために書かれた。「飯村が受けた教育」Ⅱ「四恩」のうち、前者は家庭教育である第一「父母の恩」を、後者は儒教教典による第二「教師の恩」を、具体的に語ったものだ。

『父母の巻』に語られる母は、大農家の家政の切り盛り長け「己れ人を敬えば人また己を敬う」という教訓を何事にも応用し、決して人を粗末にせぬ人だ。寄食者の長所を見つけて上手に使い、自暴自棄になった人を改悛させる。こうした人材活用術は飯村に受け継

がれた。父は理財に長けた人物で地域の近代化にいち早く対応した。「株(利潤を生み出す資産)」に投資し、「汝は汝たり。我は我たり」として子の行動を拘束しない。この新しい父の態度は実に見事だ。

『家庭小話』は、「序」に「普通人間の心は誠に薄弱なもので、他に動かされやすい」。「それ故に人たるものは何よりも先に人間の道として終身確守する心術を定め置くが寛容」、「それには孔孟の書物を読み常識の修養を心掛けるのが一番捷路(チカミチ)と考える」とあるように、儒教教典に導かれた自身の「心術」を語ったもので、旧制度・旧文化の崩壊と急激な近代化の中で揺らぐ公共性や正義についての「定見」を、彼はここから得た。無闇に他説を排撃せず自ら説を述べながら他説を受け入れ、大同団結する重要性を述べる師・菊池三溪の説もここにある。

「四恩の説」の第三「主君の恩」は水戸学を出自とする「尊皇愛国」思想とまとめられる。『家庭小話』の序文に「忠君愛国」という言葉があるが詳しく説明されてはいない。鹿島桜巷の原作を入念に訂正した飯村の著述『尽忠護国塔 飯田軍蔵伝』(弘文社、大正15年5月)

を参照する必要がある。飯田軍蔵は木戸村(現筑西市)の名主の長男で平民の出身であったが、天狗党の筑波山拳兵に参加、下妻合戦では実質的な参謀としてその勝利に貢献した。彼の出廬の歌は、

東風吹くや 鳥羽の湖(あふみの)
さ、波は 皇国(みくに)の春の
花のさきがけ

というものだった。水戸学の「尊王攘夷」という言葉は、心ある多くのの人々に、天皇を結集の核とし、海という外縁に囲まれ、外圧に晒された、「想像の共同体」(B・アングダーソン)を想起させた。眼前の封建制を超える「日本」の原像だ。軍蔵のいう「皇国」はそれを指している。その共有が近代国家を出現させる力となった。飯村は幼少時、筑波の陣から亮天僧正を訪ね、千妙寺に来た軍蔵に給仕をした。長じて地方自治体の役人や県議会議員となり、自由民権運動に参加、国会開設時の第1回・第2回の衆議院議員として、近代国民国家「日本」の形成に関わった。国民主権の思想が生まれる以前の話だが、国家への忠誠は自分の住む共同体への貢献であり、飯村にとって当然のものだった。

第四「衆生の恩」については前回(3)に述べた。「商品」Ⅱ「物」の移動の背後にも「贈与と返礼」的な「互酬」関係が「報恩感謝」として存するという考えだ。

飯村は儒教の「三尊」父母の恩・主君の恩・教師の恩に衆生の恩を加えたものが仏教の「四恩」だとしている。「三尊」は飯村の「心の学問をせよ」(大正11年7月)にも同じ言及がある。しかし班固『白虎通義』は「三尊」を「君父師」とし儒教典に例外が無い。「四恩」も、『心地観経』に父母恩・衆生恩・国王恩・三宝恩、『釈氏要覽』に父母恩・師長恩・国王恩・施主恩、『平家物語』に天地恩・国王恩・父母恩・衆生恩とあるが、一致するものがない。飯村の「四恩」には仏教典と儒教典の融合があり、その統合過程で儒教的な「父」が「父母」に改められ、仏教の教派的な「三宝恩」「施主恩」が抜け落ち、古典文学の空幕たる「天地恩」が消えた。その分、夾雑物が落ち、飯村の血の通ったオリジナルな哲学思想になったと言える。(K)

会報編集

加倉井東他 校内百周年準備委員会